# 「生きて働く読解力」の育成を目指す指導法の研究
## ～読んだり書いたりする学習を通して情報を活用する効果が実感できる授業づくり～

愛知淑徳大学文学部教育学科
中嶋　真弓

## Ⅰ.はじめに

令和５年度「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が公表された。「教科に関する調査結果」(小学校国語)から課題と改善策をみると以下のようである。

・結果概要(◆印は、「課題のある点」についての記述 引用者補)

◆複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題がある(p.3)(波線は引用者 以下同様)。

・情報の扱い方に関する事項

◆情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある(p.3)。

→(指導改善のポイント)情報の関係を様々な方法で理解することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導すると効果的である(p.3)。

・書くこと

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある(p.4)。

→(指導改善のポイント)必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導すると効果的である(p.5)。

・読むこと

◆複数の資料を読んで理解したことを関連付けながら、自分の考えをまとめることに課題がある(p.5)。

→(指導改善のポイント)〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導することが大切である(p.5)。

また、文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』の「⑵情報の扱い方に関する事項」の中にも「急速に情報化が進展する社会において、様々な媒体の中から必要な情報を取り出したり、情報同士の関係を分かりやすく整理したり、発信したい情報を様々な手段で表現したりすることが求められている」(p.23)とある。

本稿では、これらの課題並びに改善のポイント、解説から児童が自分のことを相手に伝え、理解してもらうためには情報が必要であることを実感すると同時に、どのような情報をどのように活用し取り入れるとよいかを主体的に考え、効果的に情報を活用することができるようにしていくことが大切だと考えた。

そこで、本稿では、情報の一つとして低学年では文章と挿絵、写真等、高学年では文章と図表やグラフ等が自己表現において活用でき、その活用によって、より自分の考えが相手に伝わることを自ら感得し、今後の表現活動に活かしていくことができるような授業を構想することを考えた。具体的には、情報を活用することが自己表現には効果的であることを実感することができる学習、どういう情報がよい情報かを見極め、理解し、生かすことができる学習を目ざす。

## Ⅱ.観察記録を書こう　～低学年の学習を中心に～

学習において「絵日記を書きましょう。」、「アサガオの観察記録を書きましょう。」と国語科や他の教科においても書く学習が行われている。その学習に使用されるワークシートは、多くの場合教師側が与えたもので、上段に絵、下段に文章が書けるものが多いと思われる。児童も、絵と文章がセットになっていることが当然のごとく「そういうものだ」と思っていると考えられる。本学習では、今まで当然、何となくと思っていたことを、「確かに絵や写真を入れた方がよく分かる」、「絵や写真を活用しながら文章化した方が相手に伝わる」と実感させたいと考えた。これによって、はじめて必然をもって情報を自分との関わりの中で捉え、「どういう情報がよいのか」、「どのように提示すればよいのか」、「どこに提示すればよいのか」といった児童の多様な考えを引き出し、主体的な学習となると考えたからである。

ここでは、観察記録を書く学習をとおして、文章と絵や写真といった情報との関わりを捉えさせる学習を構想する。

〔単元名〕アサガオの観察記録を書こう。

〔本単元のポイント及びねらい〕

・情報の有用性を理解する。
・情報と情報を結び付ける効果を理解する。
・児童が多様な方法で自己表現する。
・生活科、図画工作科あるいは総合的な学習の時間と連携して、横断的な学習として取り組むことも可能である。

【学習過程】

⑴「アサガオの観察記録を書く」ために、どのようなことを書く必要があるか、または、書きたいかを交流する。

・全体での交流の前に、各自で考える場を設定し、その後、グループまたは学級全体で交流する。

⑵自分の伝えたいことを書くことができるオリジナル観察記録シートを考える。

・子どもたちにA4判の白紙の用紙を渡し、そこにフリーハンドで自分なりのオリジナル観察記録シートを書くようにする。
・文章を書くコーナー、絵を描くコーナー、写真は貼るコーナー等、児童は多様な考えを出してくると思われる。また、文章を書く箇所にしても罫線、マス目、吹き出しで書くようにしたり、マス目等はなくして白紙の状態で書けるようにしたりすることも考えられる。児童の発想を生かしながら進めていく。

⑶⑵で書いたオリジナル観察記録シートをグループで見せ合いながら交流し共有する。

・交流するときは、「なぜそのようなオリジナル観察記録シートにしたか」を説明する。
　＊この交流によって、児童が主体的に観察記録には何が必要かを考えながら必然をもって活動に取り組むことができるのである。今まで文章があり、絵を描くという当たり前であった活動が、その絵を描くことによって、どのようなよさがあるのか、そのよさを生かすためにどのように絵を描けばよいのか、文章に表現すればよいのかを関連付けながら取り組むことができるのである。それは、自分がその情報が必要であることを理解したことによって初めて主体的に考えることができるからである。

⑷各自のオリジナル観察記録シートに観察記録を書く。

・オリジナル観察記録シートは、児童各自の手作りでもよいが、低学年の場合罫線や枠を書いたりするのに時間が必要になるために、⑵で考案したオリジナル観察記録シートを教師側がパソコン

等で作成しておくのがよい。

・友達の意見を聞いて活用したい観察記録シートを各自選択させてもよい。

⑸⑷で書いた観察記録を掲示し、観察記録から分かったこと、そして、なぜそれがよく分かったかを書いてお互いの観察記録のよさを認め合う。

・ここでは、絵があることによって文章の内容がよく分かること等必要な情報をより分かりやすい方法で提示することによって、友達に理解してもらえることを捉えさせていきたい。また、そのために、文章表現を工夫することも低学年段階からも学ばせていきたい。

・お互いに観察記録を読み終えたら、友達の観察記録から分かったことやよさを「よく分かったよ！ポスト」に手紙や意見文の形式で書いてポストに入れる方法をとるのもよい。

**Ⅲ. 自分たちで教材を作ろう　～高学年の学習を中心に～**

教科書教材や学習材を読む場合、本文中に図表やグラフが挿入されていることがある。この場合、児童は今までの学習経験から、図表やグラフが組み込まれていて当然というように読み進めていく。そして、図表やグラフから読み取ったことを話し合い、その教材を手本として、今度は自分たちで図表やグラフを入れながら文章を書いていく学習を行うことがある。もちろん学びを生かす上で大切な学習であるが、児童が「この図表が必要だ」、「この数値があればより分かる」、「ここに写真があれば相手にも分かってもらえる」等、自ら考えてそれを効果的に活用することによって、相手に伝わることを実感として受け止めたとき、初めて学びの定着となると考える。「図表があるから使う」、「数値を使わなくてはいけないから入れる」という受け身ではなく、それらを活用することが自己表現においてより効果的だと実感できる学習を構想する必要がある。

そこで、内容を分かりやすく相手に理解してもらうために、図表やグラフなどの情報をどのように活用すればよいかを考える授業を構想した。

〔単元名〕自分たちで教材を作ろう。

〔本単元のポイント及びねらい〕

・児童が主体的に必要な情報について考える。

・児童の考えを生かすために選択できるようにする。

・学びを発信するとともに、自己の表現活動に生かす。

【学習過程】

⑴図表やグラフ、写真、挿絵のない学習材（説明的な文章）を読み、内容を理解する。

・図表やグラフ、写真、挿絵のない説明的な文章は、教師が準備する。扱う文章は、教科書教材でも教師が教材発掘したものでもよいが、図表やグラフ、写真、挿絵等が載せられているものを選び、児童に配付するときには、図表やグラフ、写真、挿絵等は削除しておく。図表等を削除するために、本文のつながりが不明瞭な部分は教師がその部分に手を加えておく必要がある。

⑵⑴の内容理解の学習の中で、「分かりにくかった点」、「本文に入れた方がよい内容または資料（情報）」について交流する。

・「分かりにくかった点」については、なぜ分かりにくかったのかを説明する。

・「本文に入れた方がよい内容または資料（情報）」については、具体的に何を追加した方がよいかを話し合う。

・表現に着目する児童もいると考えられる。このような場合は、表現の仕方を考えさせたり、情報の整理という観点から、箇条書きで書いてみたりする等についても意見が出せるようにする。児童から意見が出ない場合は、教師側から投げかけてみるのもよい。

⑶情報を活用する意義や効果を理解する。

児童が主体的に情報を活用する意義や効果を理解するために、下記の⑶-1 あるいは⑶-2 の 2 つの学習過程を考えた。学級の実態に応じて、教師がいずれかの方法を選択し行う。

⑶-1　⑴で活用した学習材(説明的な文章)の原本(図表やグラフ、写真、挿絵があるもの)をみて、再度内容を確認する。

・本文から図表やグラフが省略されていたことによって、分からなかったり理解しにくかったりしたことに気付かせ、情報が重要であることを実感させる。

・原本を読み、文章と図表やグラフとの関連を捉えさせる。

⑶-2　・⑴で活用した学習材(説明的な文章)に、⑵で話し合って追加したい内容や資料(情報)をグループで作成し、学級全体で交流し共有する。

・⑶-1 同様、⑴で活用した学習材(説明的な文章)の原本(図表やグラフ、写真、挿絵があるもの)を読み、再度内容の確認をする。

・⑶の学習によって、本文と図表やグラフ等の関係から、情報と情報の関連付け、整理の仕方を確認する。

・本文の内容を図表やグラフ等で確認したり、図表やグラフから本文を読み返したりする活動を行うことによって、情報の効果、それを生かした文章表現等理解させていく。そして、図表やグラフ等がある効果について実感させる。

・⑶-2 の学習では、図表やグラフの作成が必要となるために、算数との横断的な学習も構想できる。

・⑶-2 の学習では、もともとの学習材(説明的な文章)の原本(図表やグラフ、写真、挿絵があるもの)と自分たちが作成した学習材との比較ができるために、よりどのような情報が分かりやすく必要かを理解できると考える。

・図表やグラフの効果を理解することによって、図表やグラフを必要以上に入れようとすることも考えられるため、どのような情報を、どのくらいの量載せることがよいか、情報の必要性や分量についても考えさせ、情報を見極め、決めて出すことも考えさせていく必要がある。そのためには、完成した文章を繰り返し読み、「自分の伝えたいことが表現できているか」、「相手に分かってもらえるか」、「不必要な情報や情報過多になり、主張が不明瞭になっていないか」といった目的意識、相手意識をもたせて学習を進めていくようにすることが大切だといえる。

・発展学習、あるいは総合的な学習の時間で、図表やグラフを用いた文章化ができるよう年間指導計画を組み、ここでの学習を生かすことができるようにすると、定着を図ることができる。

## Ⅳ. おわりに

本稿では、児童が先ず絵や写真、図表やグラフといった情報が自己表現において大切であることを実感するための授業を構想した。今までの授業では、それらの情報があることが当然で、あるところから思考が始まっていることから、その価値や効果をあまり意識することなく学習を行ってきたのではないかと考えられる。今回は、この根本を児童に投げかけ、ゆさぶり考えさせる場としたのである。ChatGPT 等(生成系 AI)や ICT、一人一台のタブレット等々今後さらに情報化社会に対応できる情報教育が重視されてくることは確かである。そこに生きる児童たちであるからこそ、情報の有用性を理解し、主体的に情報と関わりながら情報の質を見極め、自己表現に生かしてほしいと考えている。

## 参考文献・引用文献

国立教育政策研究所「令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果(概要)」
https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23summary.pdf(2023/8/20 確認)
文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 国語編』東洋館出版.